

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2026 August
VOL.50

最 終 号



- | | |
|--|-------|
| ■ エイエスアールのお客様紹介
尾鈴電気株式会社様 | p.2-3 |
| ■ ISO9001の運用における課題
～要求事項の本質を理解しましょう～（第2回） | p.4-5 |
| ■ ISO14001改訂に向けて
～環境マネジメントの新たなポイントとは～ | p.6 |
| ■ 企業様向けISO関連教育サービス | p.7 |
| ■ 組織様向け情報 | p.8 |

尾鈴電気株式会社様 (神奈川県横浜市)

尾鈴電気株式会社様には、VOL.23（2017年10月発行）のお客様紹介にご登場いただきしており、今回は2回目のご紹介です。

新築マンションや介護施設、高速道路案内掲示板、トンネル内から小中学校まで、幅広く電気設備工事を手がけていらっしゃいます。

2005年にISO9001を取得され、20年以上継続されておられます。



代表取締役社長
奥津 俊彦 様

—現在の事業内容についてお聞かせください。

当社は創業当初より、UR賃貸住宅の24時間サポート事業を主軸として、約30年にわたり継続してまいりました。台風や豪雨の後には雨漏りが発生したり、アンテナの不具合によりテレビの映りが悪くなったりすることがあり、こうした不具合について、土日であっても対応して迅速な復旧に努めていました。しかし、近年の働き方改革や人材確保の課題により、夜間・休日対応体制の維持が難しくなったため、3年前に当該事業から撤退いたしました。

一方で、新たな分野への展開も進めております。従来より、新築マンションや介護施設、医療系ビル、駅前複合店舗などの案件は大手建設会社から受注してまいりましたが、この4、5年では高速道路の案内掲示板設置やトンネル内のLED交換工事などへも業務の幅を広げてきました。さらに、横浜市や神奈川県の学校におけるLED工事に加え、築40年以上のマンションの増加を背景としたキュービクル交換工事にも注力しています。キュービクルは建物の電源供給を担う重要設備であり、「建物の心臓部」とも言える存在です。対応可能な企業が限られる中で受注を伸ばしており、年間10～13件の実績を重ね、新たな収益の柱となっています。

なお、工事の受注構成は年度により多少の変動はありますが、概ね官公庁が30%、民間が70%となっています。

—ISO取得のきっかけを教えてください。

2005年のISO9001取得当時、現場の技術力は高く評

価されていた一方で、社内体制の整備は十分とは言えず、いわゆる現場中心で売上・利益を重視する昭和型の経営体制でした。そのような中、社員やその家族、協力業者との関係も含め、安定した受注と働きやすい環境を構築するためには、会社としての方向性を明確にする必要があるとの考えから、手探りの中でASR様のご指導を受けるに至ったと伺っております。当初は審査のたびに多くの指摘を受けていましたが、それらを改善の機会として取り組みを積み重ねてきました。また、ISO取得の背景には、社内体制の整備に加え、対外的な信用力を高めたいという狙いもありました。

—現在の取り組み状況はいかがですか。

弊社はISOの取得にとどまらず、「横浜市グランドスラム企業表彰」の認定を受けるとともに、脱炭素宣言などにも取り組み、「現場で利益を上げることのみを目的とするのではなく、さまざまな形で事業に取り組んでいる企業である」という姿勢を示してまいりました。

ただし、ISOをはじめとするこれらの認証は、取得して終わりではなく、継続的な実践と改善こそが何より重要であると考えています。そのため、何を継続すべきかを常に考え、課題を明確にしながら改善を重ね、一つひとつ着実に取り組んでまいりました。こうした積み重ねにより、現在まで継続して認証更新を行うことができています。今後も、絵に描いた餅とならないよう、その成果を毎年の審査において適切に示し、審査員に評価いただけるよう努めてまいります。

また、直近3～4年間は指摘事項もなく、高い評価を維持しておりますが、自身を律する意味も含め、気付き

た点があればあえてご意見をいただきたいと、こちらからお願いしてまいりました。さらに、審査の偏りを避けるため、審査員は毎回異なる方に依頼し、この3年間は別々の審査員に担当していただいております。



▲現場の様子

—ASRの審査はいかがですか。

前職で金融機関に勤務していた際、取引先から「国際規格であるISOは中小企業に適しているのか」という声をよく耳にしていました。しかし、現職でISOに6～7年携わる中で、ASR様はそうした点を十分に理解し、規格の考え方や要求事項を分かりやすく説明してくださると実感しています。

特に、昨年のASR通信に掲載された規格解説記事（「ISO9001規格要求事項の勘違い」シリーズ、VOL.45～47に掲載）は、難解な用語も丁寧に解説されており、課題と向き合いながら改善を重ねていくうえで参考になり、大いに役立っています。

また、自分の取り組みが本当に適切であるのかという問いは常に持ち続けており、これで十分、あるいは完全であるということは決してないと考えています。だからこそ、自問自答を繰り返しながら改善を積み重ね、理想に近づけていくことが重要だと考えています。そのような経営の指針や礎となっているのがISOであり、そしてASR様の存在であると感じています。

—働き方改革や『横浜グランドスラム企業表彰』など、さまざまな取り組みを推進されていますが、どのような点に注力されているのかお聞かせください。

働き方改革への対応は、人材採用にも大きく影響すると感じています。特に建設業は、他業種に比べて改革が遅れている側面があります。若い世代は「この会社は大丈夫か」「働きやすい環境か」という点を重視しており、かつての3Kといわれたイメージから、「社員を大切にしている会社かどうか」が問われる時代になっています。こうした背景から、制度面だけでなく意識改革も含めた体制整備が不可欠です。社員や幹部、管理者、役員が新しい価値観を受け入れていかなければ、新たに入社する人材が会社をより良い方向へ変えていくことは難しいのではないかと感じています。

私が入社した7年前は、ちょうど建設業における働き

方改革の過渡期にあり、これを一つの契機として取り組みを進めてまいりました。その一環として、各種認証の取得に取り組むとともに、ホームページも13年ぶりにリニューアルしました。従来は年に一度写真を差し替える程度でしたが、現在ではタイムリーな情報発信が可能となっています。また、地域貢献企業として10年表彰を受けるなど、外部からの評価も得られており、それが社員の意欲向上にもつながっています。

—今後の会社としての目標や、目指している姿についてお聞かせいただけますでしょうか。

品質方針の実現に向け、現場における作業ミスや手戻りの削減、リスクやロスの低減を図るとともに、重大事故の防止を経営上の重要課題として位置づけています。重大な事故は、社会的信用の失墜にもつながるためです。現場へは車で移動することが多いことから、交通事故を含めた安全対策に加え、作業中の事故防止についても常に重視し、取り組んでいます。

具体的には、日々の朝礼において当社スローガンである「年間労働災害ゼロ」を唱和するほか、安全衛生協議会の開催や定期的な現場パトロールを実施しています。また、65歳以上の作業員による脚立作業の禁止や、高所作業時における安全帯の確実な装着など、各種ルール of 徹底にも努めています。長年の経験を持つ職人の中には、煩雑さを理由にこうした取り組みに抵抗を感じる方もいますが、すぐに浸透するものではないからこそ、粘り強く伝え続け、周知徹底を図りながら実践を促しています。

こうした取り組みにより、安全で安心な施工を提供し、お客様にご満足いただける品質を維持するとともに、地域に根ざした企業として歩んでいきたいと考えています。当社の電気がしっかりついて明るい建物になった、それによって発注いただいた施工業者様に喜んでいただける、そしてその対価としてお金をいただく。——この姿勢こそが当社の原点であり、今後も変わることのない大切な価値であると考えています。



▲社員の皆様

お客様はもちろん、社員の方々も大切にされている姿が印象的な企業様でした。また、ASR通信に掲載のコラムについてもお褒めの言葉をいただき、私たちにとって大きな励みとなりました。貴重なお話をありがとうございました。

ISO 9001の運用における課題

～要求事項の本質を理解しましょう～(第2回)

1. はじめに

今回は、リスクベース思考(リスクに基づく考え方)を定着させる方法と経営におけるマネジメントレビューの位置づけについて解説します。

2. 「リスクベース思考」が定着しない本当の理由は何か

(1) 背景

ISO 9001は、リスクベース思考が中核概念として位置づけられています。しかし多くの組織において、リスクベース思考は「リスク一覧表を作ること」、「リスクアセスメント様式を埋めること」と考えられており、日常の意思決定や業務運営において十分に根付いていないのが実情です。その背景には、リスクという言葉が「危険」「問題」「悪いこと」というネガティブなものとして理解されがちな点です。また、規格導入時に形式的な手法(リスクマトリクス、点数評価など)だけが先行し、「なぜそれを考えるのか」、「何に使うのか」という目的が共有されていないことも大きな要因の一つです。その結果、リスクは文書に表現されているだけで、現場では従来通りの経験則や慣習に基づいた判断が続けられてしまうことが考えられます。

(2) 基本的な考え方

ISO 9001では、リスクに基づく考え方を次のように記載しています(0.3.3参照)。

リスクに基づく考え方は、有効な品質マネジメントシステムを達成するために必須である。リスクに基づく考え方の概念は、例えば、起こり得る不適合を除去するための予防処置を実施する、発生したあらゆる不適合を分析する、及び不適合の影響に対して適切な、再発防止のための取組みを行うということを含めて、この規格の旧版に含まれていた。

リスクベース思考の本質は、特別な分析活動ではなく、「結果に影響を与える不確かさを意識しながら意思決定する姿勢」にあります。重要なのは、すべてのリスクを洗い出すことでも、精緻な評価を行うことでもないです。

「この判断は、どのような前提条件に依存しているのか」、「うまくいかなかった場合、どの部分がボトルネックになるのか」、「逆に、うまく活かせば成果を拡大できる機会は何か」といった問いを、日常的に投げかけることです。

以上のことから、リスクベース思考とは、マネジメントを“過去の延長”ではなく、“不確実性を含んだ未来志向”に切り替えるための思考の枠組みと考える必要があります。

(3) 対応方法

リスクベース思考を定着させるためには、リスクを独立した活動として扱うのではなく、方針管理や日常管理と一体化させることが重要です。例えば、プロセスのアウトプットが不安定な場合、「手順が守られているか」ではなく、「このプロセスのリスクは何で、どの条件が変わると結果が崩れるのか」という視点で議論します。また、マネジメントレビューや部門会議において、「未然に防げたこと」、「想定外だったこと」を振り返ることで、リスクの感度を高めることも有効です。様式や点数付けにこだわるよりも、「意思決定の質が上がっているか」を評価基準とすることで、リスクベース思考は徐々に組織文化として根付いていきます。

すなわち、リスクベース思考が定着していない組織では「**リスクは書くもの**」で、定着している組織では「**リスクは考えるもの、決めるためのもの**」と考えると良いでしょう。

3. マネジメントレビューは経営に使われているか

(1) 背景

マネジメントレビューは、トップマネジメントがマネジメントシステムの適切性・妥当性・有効性を評価する場として規格で要求されています。しかし実態としては、「年に一度の報告会」、「各部門の実績を順番に読み上げる場」、「審査のための儀式」と化しているケースが少なくないです。経営層にとっては新しい情報が少なく、現場にとっては“無難に終わらせる行事”となり、結果として経営判断にはほとんど使われていません。この背景には、マネジメントレビューの位置づけが「規格要求への対応」に留まり、「経営活動のレビュー」として再定義されていないことがあります。

(2) 基本的な考え方

ISO 9001 の9.3.1 一般では、次の事項が要求されています。

トップマネジメントは、組織の品質マネジメントシステムが、引き続き、適切、妥当かつ有効で更に組織の戦略的な方向性と一致していることを確実にするために、あらかじめ定めた間隔で、品質マネジメントシステムをレビューしなければならない。

組織の品質マネジメントシステムとは、一般的に品質マニュアルに規定された品質保証システムを指していますので、これは事業計画の一環として運営管理されています。このため、全体的な事業活動のレビュー時にQMSに関するレビューも行う必要があります。ここでレビューとは、単なる「確認」や「報告」ではなく、判断し、方向性を決めるための行為(事実の把握、判断、評価)を行うことです。

マネジメントレビューの本質は、「トップマネジメントが、事実とデータに基づいて自らの意思決定を点検し、次の打ち手を決める場」です。ここで問われるべきは、「計画通りやっ

たか」ではなく、「やった結果、組織の能力は高まっているか」、「戦略や前提条件は今も妥当か」です。したがって、報告項目の網羅性よりも、経営判断に直結する論点が設定されているかが重要です。このため、マネジメントレビューは、過去を総括する場ではなく、未来に向けた経営の再設計の場になります。

(3) 対応方法

経営に使われるマネジメントレビューにするためには、まず議題を「報告型」から「問い型」に転換する必要があります。例えば、「品質目標は達成したか」ではなく、「この結果は市場や組織の変化を踏まえて十分か」、「次の一年で最も強化すべきプロセスは何か」といった問いを設定します。また、リスクや機会、プロセスの能力といった情報を、経営判断に使える形で要約し、意思決定につなげることが重要です。レビューの成果として、「何をやめるか」、「何に資源を集中するか」が明確になったとき、マネジメントレビューは初めて経営の道具として機能することになります。

📖 本記事についてもっと学習したい方へ

eラーニング版

**ISO9001の運用における課題
～要求事項の本質を理解しましょう～**

受講申し込み受付中!

動画にてさらに詳しく、また記事では書きれなかった内容まで、分かりやすく解説いたします。

■第1回 (VOL.49)

「組織の状況」はなぜ形骸化しやすいのか
プロセスアプローチを誤解していないか

視聴時間: 合計1時間 (全4講座)

■第2回 (VOL.50)

「リスクベース思考」が定着しない本当の理由は何か
マネジメントレビューは経営に使われているか

視聴時間: 合計1時間 (全4講座)

▼ 詳細・お申し込みはホームページより ▼

第1回: https://www.armsr.co.jp/elearning/iso9001_unyo1

第2回: https://www.armsr.co.jp/elearning/iso9001_unyo2

福丸 典芳 氏

(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。

ISO14001が改訂されました ～環境マネジメントの新たなポイントとは～

■ はじめに

2026年4月15日、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001が約10年ぶりに改訂されました。今回の改訂は大幅な変更ではなく、近年の環境課題を反映した「要求事項の明確化・強化」が中心となっています。本記事では、改訂のポイントと企業活動への影響について分かりやすく解説します。

1. 今回の改訂の背景

近年、企業を取り巻く環境課題は大きく変化しています。とくに以下のテーマが強く求められるようになりました。

- ・気候変動への対応（脱炭素・炭素排出削減）
- ・生物多様性の保全
- ・資源の有効活用（サーキュラーエコノミー）

こうした社会的要請の高まりに対応するため、ISO14001も現代の課題に即した形へと見直されました。

2. 改訂の主なポイント

(1) 気候変動の考慮が必須に

組織の外部・内部環境の分析の中で、「気候変動が事業に影響するか」を考えることが求められます。

■ポイント：単なる環境活動ではなく、経営リスクとしての認識が重要になります。

(2) サプライチェーン全体への拡大

これまでの「自社の活動中心」から、調達・物流・廃棄までを含めたライフサイクル全体での管理がより重視されます。

■ポイント：取引先との連携がより重要になります。

(3) ライフサイクル視点の強化

製品・サービスについて、原材料調達から製造、使用、廃棄・リサイクルまでの一連の流れを通じた環境影響の把握が求められます。

■ポイント：自社の範囲だけでなく、使用段階や廃棄段階まで含めた環境配慮が重要になります。

(4) 環境テーマの拡張

従来の公害・廃棄物に加え、次の観点が明確化されました。

- ・生物多様性
- ・天然資源の保護
- ・汚染レベル

■ポイント：環境対応の対象がより広い領域へ拡大しています。

3. 企業活動への影響

今回の改訂は、日常業務にも次のような影響が考えられます。

- ・環境に関する顧客要求の高度化
 - ・サプライヤー評価の強化
 - ・ESG / サステナビリティ対応の必要性増加
 - ・製品・サービス開発時の環境配慮の強化
- 今後は「環境対応＝コスト」ではなく、競争力や信頼性につながる要素としての重要性が高まります。

4. 今後のスケジュール

ISO14001（2026年版）への移行には、約3年間の猶予期間が設けられています。

- ・発行：2026年4月
- ・移行期限：2029年4月頃予定

この期間内に新しい規格への対応と認証移行が必要となります。

5. 移行に向けた準備

ISO14001の改訂に伴い、各組織では計画的な移行準備が求められます。主なポイントは次のとおりです。

- ・改訂内容の理解と社内共有
 - ・現行の環境マネジメントとのギャップ確認
 - ・気候変動やライフサイクル視点を含めた環境リスクの整理
 - ・必要に応じた手順書や運用の見直し
- 特に今回の改訂では、気候変動やサプライチェーンへの配慮に加え、ライフサイクル全体での視点が重要になります。
- 早期に準備を進めることで、スムーズな移行と継続的な改善につながります。

■ まとめ

今回のISO14001改訂のポイントは、環境への取り組みをより広い視野で捉える点にあります。

- ✓ 気候変動への対応が必須化
- ✓ サプライチェーン全体への拡大
- ✓ 環境対応の高度化・広範化

これらは単なる規格対応にとどまらず、企業活動そのものの在り方に影響を与える重要な変化です。環境活動は「取り組むべき課題」から、企業価値を高める重要な経営要素へと進化しています。



エイエスアール主催

企業様向け ISO関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（eラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2026年9月～2026年11月）

内部監査員養成セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001 1日/2日

ISO規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

品質 東京
9月16日(水)
9月29日(火)
10月 7日(水)
10月21日(水)
11月 9日(月)名古屋
10月14日(水)
11月18日(水)
9月10日(木)
10月15日(木)
11月12日(木)

環境 東京

【2015年版】
9月17日(木)
10月22日(木)
11月10日(火)
【2026年版】
10月23日(金)名古屋
9月 4日(金)
11月19日(木)
9月11日(金)
11月13日(金)情報 東京
9月28日(月)
10月19日(月)
11月 5日(木)

2日

品質 東京

9月 7日(月)～ 8日(火)
11月24日(月)～25日(火)

ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001 半日

「ISOとは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質 9月14日(月)
10月 6日(火)環境 9月15日(火)
11月 4日(水)

情報 10月 5日(月)

規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001 半日

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。「規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない」という方におすすめします。

WEBセミナー

品質 9月14日(月)
10月 6日(火)環境 【2015年版】 9月15日(火)
11月 4日(水)
【2026年版】 10月23日(金)

情報 10月 5日(月)

講師派遣型セミナーのご案内

エイエスアールでは、講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型(出張)セミナー」も行っております。「受講人数が多くて交通費がかかる」「セミナーを受けに行くのは大変」「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめです。

対象セミナー ■内部監査員養成セミナー(1日コース/2日コース) ■規格要求事項の解説セミナー ■環境側面解説セミナー

詳細につきましては、ホームページお問い合わせフォーム、もしくはメール、お電話にてお問い合わせください。

URL: <https://www.armsr.co.jp/all-contact/contact> Email: seminar@armsr.co.jp TEL: 03-3666-8624各種セミナーの詳細・お申し込みはこちらから ▶ <https://www.armsr.co.jp/seminar>

▶ ISO学習動画(eラーニング)

ISO関連講座、社員教育プログラム合わせて30本以上のコンテンツをご用意しています。新規講座も順次開講しています。

講座名	視聴時間
ISO関連講座(下記以外にも20以上の講座がございます。)	
ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	1時間30分
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	2時間30分
内部監査員養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001 ※修了証発行	6時間
ASR通信関連講座(「ISO9001の運用における課題」の記事に連動した講座です。)	
第1回「組織の状況」はなぜ形骸化しやすいのか/プロセスアプローチを誤解していないか	1時間
第2回「リスクベース思考」が定着しない本当の理由は何か/マネジメントレビューは経営に使われているか	1時間

※視聴時間は、おおよその時間です。規格(各講座)によって若干異なります。

eラーニングの詳細・お申し込みはこちらから ▶ <https://www.armsr.co.jp/elearning>

ISO9001/ISO14001 規格改訂関連動画

視聴無料

ISO9001 改訂に伴う取組み事項

30分

ISO9001 2026年版への移行に向けて、改訂内容の把握、影響評価、ギャップ分析、プロセス改善、内部監査まで、組織が実施すべき対応策を体系的に紹介します。

URL <https://www.armsr.co.jp/kaitei/qms-torikumi-video>

ISO14001

35分

改訂に当たっての重点活動と改訂のステップ

ISO14001改訂に当たって、その意図を知り、組織がやるべきことは何か、そしてその成果について解説いたします。

URL <https://www.armsr.co.jp/kaitei/ems-step-video>



エイエスアールの スタッフ紹介

認証部1か月目、
毎日が学びの連続です！



氏名	内田 七望 (うちだ ななみ)
所属	認証部
趣味	博物/美術展の観覧・全国の銘菓の発掘

はじめまして。認証部の内田と申します。現在、登録事項変更申請の確認や一時的サイトのサンプリング業務を中心に担当しております。

実は認証部へ異動してまだ1か月ほどで、現在は日々学びながら業務に取り組んでおります。入社5年目にして、ISO認証業務の中核を担う認証部に配属されるとは想像していませんでしたが、お客様からのお問い合わせ内容は非常に幅広く、また認証部内だけでなく、審査員の方々や関係部署との密接な連携も求められるため、大きなやりがいを感じながら充実した毎日を過ごしています。

お客様によりご満足いただけるサービスを提供するため、弊社の仕組みや取り組みの中で改善すべき点があれば積極的に提案し、実行できるよう、知識と経験を積み重ね

ていくことを当面の目標としています。

個人的な趣味は、デパ地下の食品コーナーを巡ったり、散歩中や旅行先で日本全国の銘菓を購入したりすることです。中でも気に入ったものがあれば、家族や社内のメンバーに配ることもあります。「このお菓子は美味しいのでは是非知ってほしい！」という想いから、好きだと感じたものの魅力を周囲に紹介したり、宣伝したりすることが趣味とも言えるかもしれません。

お客様に「ISO認証を取得してよかった」と感じていただけるよう、一日でも早く皆さまのお役に立てる存在となれるよう努めてまいります。これからよろしくお願いいたします！

「ASR通信」終刊のごあいさつ

本号をもちまして、長年にわたり発行してまいりました広報誌「ASR通信」を終了することとなりました。これまで10年以上にわたり、ISO運用に関する情報、お客様の活動や取り組みなどさまざまな情報をご紹介してまいりました。毎号の発行を重ねることができたのは、取材や誌面作りにご協力いただいた皆さま、そして毎号ご愛読くださった皆さまの温かいご支援の賜物です。心よりお礼申し上げます。

広報誌という形での発信は一区切りとなりますが、これまで誌面でお届けしてきた情報やその思いがなくなるわけではなく、今後は当社ホームページを中心に、皆様の業務や活動にお役立ていただける情報を、より充実した形で発信してまいります。冊子として定期的なお届けする形から、必要な情報を必要ときにご覧いただける形へと、情報提供の方法は変わりますが、「皆さまのお役に立つ情報をお届けしたい」という思いはこれからも変わりません。

長年にわたり本誌をご愛読いただきましたすべての皆さまに、改めて厚く御礼申し上げます。今後とも当社ホームページをご活用いただくとともに、変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。長い間、ありがとうございました。

ASR通信 事務局

発行元：エイエスアール株式会社

本社 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)
名古屋支社 〒450-0002 愛知県名古屋市中区西区名駅2-34-20
TEL 052-533-1822
名古屋第二支社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102
大阪支社 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



E-mail otoiawase@armsr.co.jp

ASR ISO

検索